

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
 (発達障害早期支援研究事業)
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (君津市教育委員会)

1. テーマ

発達障害の可能性のある児童生徒の抱える困難さを改善する指導法の工夫

2. 問題意識・提案背景

市内全小・中学校対象の巡回訪問時に、どの学校でも「読み・書き」に困難さのある児童生徒の支援に苦慮していることが話題となった。また、通常の学級に在籍するコミュニケーション面で困難さのある児童生徒への周囲の理解が不十分なため、トラブルに繋がる場合があり、自己肯定感を支えることが難しいという課題を多くの学校が抱えていることがわかった。

このような実態から、本市の特別支援教育をさらに推進するためには、特に通常の学級担任を対象に、支援を必要とする児童生徒の抱える困難さへの理解を深め、指導の改善を図ることが必要だと考えた。

そこで君津市教育委員会としては、研究推進校を拠点として発達障害支援アドバイザーを配置し、市内全小中学校の通常の学級に在籍する支援を必要とする児童生徒の学習面・生活面への不適応を改善・防止することを計画した。

3. 指定校について

(1) 君津市立外^{きみつ}箕輪^{そよみのわ}小学校

研究推進校名：君津市立外箕輪小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	32	1	29	1	28	1	34	1	29	1	25	1
特別支援学級	1										1	
通級による指導 (対象者数)	2		2									
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	10	1			1	1			1	16

地域の人々の教育への関心は高く、教育ボランティア活動や児童の安全教育等に積極的に取り組んでいる。

特別支援教育に於いては、平成 26 年 11 月に、千葉県南部地区では初めてとなる千葉県立千葉盲学校のサテライト教室 (弱視通級指導教室) が開設された。平成 27 年度からは、他校からの通級も受け入れる体制をとった。市内の視覚障害教育を推進する拠点として盲学校のセンター的機能の役割を担っていくことが期待される。

(2) ^{きみつ} ^{きたこやす} 君津市立北子安小学校

研究推進校名：君津市立北子安小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	35	1	38	2	31	1	46	2	38	2	53	2
特別支援学級	1		1		1		1		2			
通級による指導 (対象者数)	2		1									
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	12	1	2		1	2			1	21

保護者や地域住民の教育に対する関心は高く、PTA活動も熱心で、学校運営に協力的である。特別支援教育に於いては、特別支援学級（自閉症・情緒障害学級）に在籍する児童の保護者からの希望を受け、療育機関や医療関係者による「支援会議」を、平成24年度から開き、外部機関と連携しながら、支援体制の充実に向けて積極的に努力している。

4. 指定校における取組概要

<p>①目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み・書き」に困難さのある児童生徒に対する指導法の改善・工夫を通して、学力の向上を図る。 ・行動面で困難を示す児童生徒に対する指導方法の改善・工夫を通して、心の教育の充実を図る。 <p>②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p> <p>君津特別支援学校地域支援担当者、発達障害支援アドバイザー、市教委教育センター所員で構成する特別支援チームの巡回訪問後に、著しく学習や行動面で困難さを示した児童の状態や状況及びその支援について共通理解を図るため、校内研修会を実施した。その後、対象児童について明確にするための検討を行った。</p> <p>③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容 千葉県「豊かな人間関係づくり実践プログラム」を活用し、通常の学級のコミュニケーション能力の向上を図った。 ・放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容 道村式漢字学習法を参考に、誰もが取り組みやすい漢字プリントを作成した。それを自主学習や、家庭学習で使用した。 <p>④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の漢字テストの結果による評価 ・普段のノートから評価 ・質問紙による評価

5. 主な成果

①発達障害支援アドバイザーの配置

週に3～4日配置することによって、校内の児童の実態をしっかりと把握した上で、指導について検討することができた。「心の教育の充実」においては、点数化が難しく、評価の方法が限られた。また、「学力の向上」においても、継続したデータを取ることが難しかったが、両アドバイザーが献身的かつ効率的に研究を進めた。市内小・中学校においては、1実践を報告することで、意識化が図れた。

②研修の場の提供

特別支援教育コーディネーター、若年層教員、管理職を対象に研修会を行った。

③教材・資料の配付

市内小・中学校に、発達障害関係の資料や教材を配付した。これらを参考にして1実践を行い、報告した学校が多数あった。

④早期支援のための基礎的環境整備

県立千葉盲学校、県立君津特別支援学校、千葉県教育庁南房総教育事務所など、様々な機関と連携した。各校へ必要な支援ができるよう、さらに連携を深めていきたい。

6. 今後の課題と対応

①実践報告書の活用（全小・中学校）

実践事例集として紙媒体での発信や、市内小・中学校コミュニケーションネットワークシステム「SA@SCHOOL」のネットライブラリの活用などをし、各校の取り組みや、発達障害支援アドバイザーが作成した学習プリントなどを、いつでも閲覧・利用できるように共有化したい。

②発達障害支援アドバイザーの更なる活用の仕方（全小・中学校）

指定校2校については、今年度の実態把握の結果を生かし、学校のニーズを把握した上で、アドバイザーの研究を深めたい。他校にも訪問指導ができる旨をさらに周知し、アドバイザーのスキルを、困り感を持つ児童生徒のために生かしたい。

③教職員の力量向上（全小・中学校）

特別支援学校のセンター的機能を生かして、研修の充実を図っていきたい。

④幼稚園・保育園との連携（市教委、全小・中学校）

子育て支援課、幼児ことばの相談室、各公私立幼稚園長・保育園長と連携を図り、早期からの支援につなげたい。

7. 問い合わせ先

組織名：君津市教育委員会

- (1) 担当部署 教育センター
- (2) 所在地 千葉県君津市久保2-13-1
- (3) 電話番号 0439 (56) 1618
- (4) FAX 番号 0439 (56) 1648
- (5) メールアドレス kimi-edc@kimitsu.ed.jp